

【会長賞：中学生の部】

「私にとっての『福祉』」

岩手県・花巻市立石鳥谷中学校
1年 高橋 美羽 さん

私は、生まれつき右目が見えません。ガラクトース血症という病気の疑いがあるとされました。そのせいで、右目の視神経がしっかりと成長できずに、片目が見えないという状態になりました。

私は、視覚障がい者ではないですが、一応保育園児の頃、2・3回だけ視覚支援学校に行きました。そこには、目の不自由な子がたくさんいて、その子たちとたくさん遊びました。その時のみんなの顔は、これ以上ないくらいの笑顔になっていました。このことを福祉と呼ぶか分かりませんが、誰かとふれあい、誰かと話し、誰かと一緒にいろいろなことを体験すること。それこそが、ハンディキャップを背負っている人たちにとって一番うれしいことで、一番ホッとすることではないかなと思います。

私も右目が見えていなくても、みんなと一緒にいろいろなことができるとうれしい気持ちになります。これを私は「心の福祉」だと思っています。私の中の「心の福祉」はおもに、思いやりや気づかい・気配りといった心のケアに関わることだと思っています。

逆に「右目が見えないから」と言って特別扱いをされると、いやな気持ちになったり、つらい気持ちになったりします。心配して特別扱いしてくれるのはうれしいけれど、私はみんなが思っている以上に自分でできることが多いと思います。

私の地域では、高齢者の方がたくさん暮らしていますが、交流する行事はスポーツ大会だけと、とても少ないです。ですので私は、資源回収などでその人たちの家々を回ったときは、温かい気持ちとやさしい口調で話すことを心がけています。

「心の福祉」の次は「体の福祉」を考えたいと思います。私は、障がいのある方や高齢者の方が楽に生活できて幸せを感じることができるようになることが、「体の福祉」だと思っています。

中学生の私たちにできる福祉の活動は限られています。募金や、介護施設などへの訪問がありますが、「さあ、福祉活動をしよう。」と肩に力を入れすぎず、普段から思いやりのある気持ちを持って生活していけばいいのだと思っています。

福祉の「福」という漢字には、幸せや幸いという意味があります。「祉」にも幸いという意味が含まれており、社会福祉という言葉は幸せに生きられる社会という意味だそうです。サポートする側、サポートされる側のどちらも幸せでいられることが大切です。

私は将来、介護福祉士になろうと考えています。この夢を持ったのは、小学校6年生の卒業間際でした。未来のことは分からないけれど、介護福祉士になりたいという思いは、5年後、10年後と変わらないと思います。それくらい、一人でも多くの人の手助けをしたいという気持ちが強くあります。そして、その方たちの笑顔を見ることができれば幸いです。